

1971年8月7日第3種郵便物認可（毎月6回）1の日・6の日
2012年12月2日発行SSKA増刊通巻第7770号

SSKA

全国パーキンソン病友の会会報
茨城県支部だより

2012年12月2日発行[第90号]



紅葉のいこいの村酒沼（鉾田市）

全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 茨城県龍ヶ崎市貝原塚町 3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

郵便振替口座 00300-4-38042

Eメール y&uhisa.u@hb.tp1.jp

目 次

◎	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	3
◎	『治験』って何だろう・・・・・・・・	4
◎	第27回一泊旅行患者・家族交流会の報告・・・・・・・・	6
◎	安らぎの宿『やみぞ』に一泊・・・・・・・・	9
◎	『やみぞ』への一泊旅行の朝です・・・・・・・・	11
◎	りんご狩り・・・・・・・・	11
◎	平成24年度第1回県南地区交流会を開催して・・・・・・・・	13
◎	県南地区の交流会に参加して・・・・・・・・	14
◎	県南地区の交流会に参加して・・・・・・・・	15
◎	平成24年度県央・県北地区交流会に参加して・・・・・・・・	16
◎	平成24年度県央・県北地区交流会に参加して・・・・・・・・	17
◎	県央・県北地区交流会に参加して・・・・・・・・	18
◎	県央・県北地区交流会に参加して・・・・・・・・	18
◎	第3回誌上作品展・・・・・・・・	20
◎	事務局からのお知らせ・・・・・・・・	31
◎	編集後記・・・・・・・・	32

はじめに

支部長 植本泰久

私たちの生きている間においてこれほど嬉しいニュースがあったでしょうか。京都大学の山中教授が iPS 細胞作成の成功によりノーベル医学生理学賞を受賞されたことです。

これは再生医学の実用化であり、難病パーキンソン病の原因究明、創薬に力とスピードを与えてくれるもので、私たち患者にとってはこの上ない希望の光となるものです。

山中教授の業績を祝すと共にパーキンソン病への実用化にスピードを上げて下さるようお願いしたいと思います

また現在国の難病対策委員会では次の9項目について検討がなされており中間報告がされています。(詳細については全国会報のNO. 130号に掲載されています。)

会員増強活動について

友の会の組織を強くするため全国で会員数を一万人にするように取り組んでいます。これを茨城県支部に割り当てられた数は169名です。

平成24年11月15日現在では166名です。残り少ない今年度の間にチャレンジしましょう。

尚、ここ2～3年活動していることとして

1. 講演会、医療相談会などの開催に、ビラ、ポスター等を作り保健所・病院等に配布しPRしている。
2. 保健所主催の会合に出席、また会報の配付などをして協力体制をつくる努力をしている。
3. 魅力ある交流会とするため、音楽を取り入れ参加者を多くするように努力している。
4. 広い支部を3か所に分け患者さんの行動しやすい状態にする。

以上の活動で会員を増やす努力をしています。

『^{ちけん}治験』って何だろう

『治験』とは国から『くすり』として認めてもらうために行われるための試験の事です。

一つの『くすり』が誕生するまでにはいくつもの段階を経なくてはなりません。

「くすり」の誕生までの流れは step1 ～ step 6 まで次の通りです。

step 1	「くすりのもと」の発見	基礎研究
step 2	動物で試験、非臨床試験	
step 3	人で実際に使ってみる	治験（臨床試験）
step 4	「くすり」として認めてもらう	承認申請
step 5	「くすり」の誕生	多くの研究と治験に参加する方の協力を経てようやく「くすり」として使用することができる
step 6	「くすり」を育てる	製造販売調査

『治験』は3つの段階に分けて慎重に進められます。

- 第1段階 : 健康な人で行う
- 第2段階 : 少数の患者さんで行う
- 第3段階 : 多数の患者さんで行う

また、『治験』は詳しい説明と信頼できるサポート体制で進められます。参加する方の健康状態にはいつも細心の注意がはられます。仮に参加しても途中でやめる自由があります。

但し、誰でも参加できるとは限りません。(医師が適切でないと判断される事もあります。)

患者さんが行う『治験』の流れ

1. はじめの診察
2. 治験の説明を聞く
3. 同意書に署名する
4. 検査する
5. 治験を開始する
6. 診察・検査（何度か繰り返し行います）

社団法人日本医師会治験促進センター資料より抜粋

全国会報（130号）にMSDの“パーキンソン病の新しい薬の治験にご協力ください”というチラシが折り込まれました。

全国会報（129号）にはもっと詳しく掲載されています。（P44～45）
もし協力したい方は主治医の先生に相談なさるといいと思います。



第 27 回一泊旅行患者・家族交流会の報告

事務局長 植本純代

☆ 概要

日時 : 平成 24 年 10 月 21 日 (日) ~22 日 (月)

場所 : 太子温泉『やみぞ』

☆ スケジュール

1 日目(10 月 21 日)	2 日目(10 月 22 日)
10:00 送迎バス水戸駅南口出発	7:30 朝食
11:30~45 『やみぞ』 集合	9:00~11:30 レクレーション
12:00 昼食	1. グランドゴルフ
13:00~16:00 患者・家族の交流会	2. 囲碁
16:00~17:50 自由時間	3. 将棋
17:50~20:30 記念撮影、宴会	4. 懇談
21:00~22:00 京大山中教授による (NHK 放送) iPS 細胞	11:30~13:00 リンゴ狩り、昼食
22:00~23:00 支部長の部屋で 話そう	13:00 解散、 バス水戸駅南口へ

今年の一泊旅行は好天に恵まれて秋半ばというものの日中は暑いぐらいでした。昨年に続いて『やみぞ』を常宿とし、また常宿であると様子が解り安心して利用できるという事で利用しました。県内であり、利用価格も安く、十分楽しめるところであるという事も利用した理由です。

役員会での打合せで、2 日目に 10 時に解散してもその日は 1 日となるので今年は 2 日目を有意義に過ごそうという事でレクレーションをやることにしました。

上記概要の通り進めました。

昨年と同じ 30 名の参加でした。昨年は 2 日目の送迎バスが 10 時出発で早朝のリンゴ狩りとなりました。今年は昨年の反省を踏まえて、1 日目の交流会もマイクの使える部屋にしました。

1 日目の交流会は 3 時間ですが始めの 1 時間半は参加者皆様の自己紹介で終わりました。そして休憩をとり、ほっと一息体操と思っていましたが加藤さんはストレッチで身体ほぐしを皆様に行ってもらいたいと思い一生懸命にやっ

て下さり予定の時間もオーバーとなりました。

その後、患者と家族に分かれての話し合いですが、机を動かして患者・家族の話し合いの場を作り、会場が雑然としていたことも事実でしたが、概ね、良かったという反省が多く出ました。

夜の宴会は17時50分に集まるようにしましたのも、去年は集まりが悪く無駄な時間があったためです。今年はすべて予定通りに進みました。

お食事は食べきれない程あり、宮部さんにやって頂いたビンゴゲームを楽しみ、またカラオケも手際よく寺門さん、綿引さんがやって下さいましたので皆様十分に楽しめました。

宴会後、9時からNHKテレビでノーベル賞を受賞される京都大学教授、山中先生の iPS細胞 についての放映があり皆様に連絡して関心のある方はご覧になられたと思います。

毎年宴会後、支部長の部屋で話そうとなっていました。去年ぐらいから人の集まりが少なくなりました。辞めようかと思いましたが、また期待される方がおられるかもしれないと思い行いましたが、さほど集まりませんでした。

2日目の朝になりました。今日も

好天に恵まれて気持ちのよい目覚めとなりました。初めて行うレクリエーションです。

グランドゴルフ、囲碁、将棋、懇談に分かれて自分の希望のところに参加して行いました。

グランドゴルフはボールを打ってゴールに入れるだけで点数などは記録しないで打っていく。青空と芝生のもとでやることは気持ちよく参加できました。(18名程)、囲碁をする方は2名、将棋をする人は5名で、囲碁、将棋は娯楽室で静かに行う事が出来ました。

今年の体育館は震災の修理のため利用できなくて卓球は行えませんでした。来年は行えると思います。

グランドゴルフなど身体を動かす事は疲れた時にはいつでも抜けられ、自分に合わせて行えるので良かったと思っています。

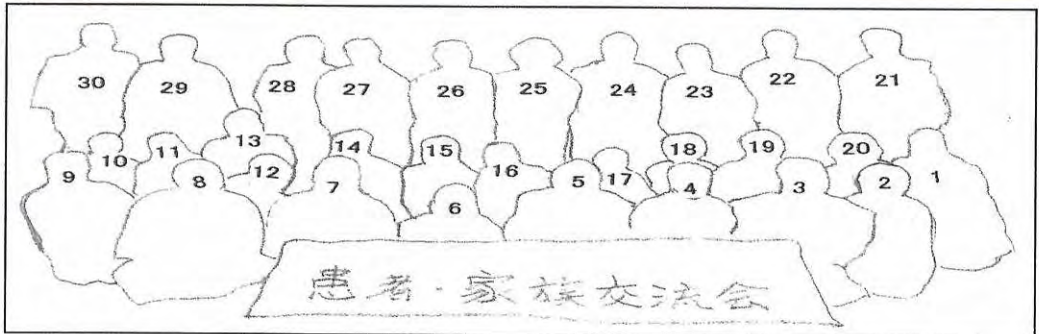
11時30分にリンゴ狩りに出発しました。ところが『やみぞ』のバスは昨年と違ったりんご園に行き、自家用車組は昨年行ったりんご園に行きました。そしてりんごの試食をしていましたら、バスは昨年と違ったりんご園に行ったことが、宮部さんからの連絡で、自家用車組もバスの方へ行くというハプニングがありました。青空のもとりんごの緑の葉と赤い実がとて

も印象的で、すばらしいりんご狩りになりました。りんご園で食べたお昼のお弁当も美味しく頂きました。

13時になって、バスの出発を見

送り、帰路につきました。

会員と役員の皆様のご協力で、事故もなく無事終了できました事を御礼申し上げます。



1	益子憲明	2	佐藤美恵子	3	篠塚敏満	4	鈴木智津子
5	植本泰久	6	小島久子	7	篠塚 文	8	大久保幸市
9	植本純代	10	清水晴美	11	磯崎ツギ子	12	荒井富美子
13	吉田妙子	14	牧山一信	15	秋山とし子	16	尾沼友江
17	西村雅夫	18	篠塚洋子	19	塙 友子	20	益子朋子
21	宮部知克	22	綿引義男	23	加藤辰男	24	寺門正次
25	竹内照代	26	西村澄子	27	竹内泰生	28	吉田政幸
29	若山 弘	30	磯崎 繁				

安らぎの宿『やみぞ』に一泊

水戸市 宮部知克

秋の気配が深まる中、支部恒例の一泊旅行が、皆様のご協力のもと無事に終わることができました。役員一同心からお礼申し上げます。

去る10月21・22日の両日は素晴らしい晴天に恵まれた穏やかな絶好の“旅行日和”であったと大変満足しております。

今回の一泊旅行は昨年と同様、秋の味覚いっぱい的大子温泉・安らぎの宿『やみぞ』にさせて頂きました。『やみぞ』への移動手段としましては、現地直行グループと『やみぞ』の送迎バスを利用するグループに分かれました。バスの待合場所はJR水戸駅南口のバスロータリーの待合場所としましたが、県央・県北・県南地区からはJRを利用してこられた方や、ご家族の方に車で送られてこられた方等、集合時間の9時50分にはほぼ勢揃いしました。久しぶりの再会にお互いの体調を気使いながら15名はバスに乗り込みました。バスは出発予定時間の10時に、四季折々の見どころに富む奥久慈へと向かいました。出発して間もなくバスの中は病気の話はもちろん、近況報告や世間話等で大変盛り上

がりました。

一方、どなたかが持参された剥いた柿が振る舞われたりしている時、綿引役員が昨夜作ったという小さな歌集が配られました。全員に行き渡るとバスの中は綿引役員のリードで大合唱となり、楽しいひとときでした。

さて、車窓から見える奥久慈の山々は未だ紅葉には少し早すぎるようでしたが、山々の間を這うように流れている清流久慈川と美しい山のコントラストは実に見ごたえのある景色でした。

やがて私たちの乗ったバスは今宵の宿『やみぞ』に到着し、支部長をはじめ直行グループの仲間たちがにこにこしながら出迎えて下さいました。早速受付を済ませロビーで小休止した後、食事処での昼食となりました。そこには私たち全員の食事がすでに用意されておりました。私はここでの山菜そばが味といい、香りといい、妙に気に入っています。

食事もすみ十分に腹ごしらえをした頃、交流会の会場である多目的ホールへの移動となりました。

いよいよ交流会の始まりです。

植本支部長のご挨拶のあと今回の旅行についてお骨折り下さった植本事務局長から今日・明日の予定についての説明がありました。その後会員の皆さまから自己紹介を兼ねた一言発言があり、それは患者自身の病に対する思いであったり、介護する家族の心配の声であったりと様々でした。私たちはそうした思いを踏まえ、今回の交流会での目玉を患者と家族が分かれてのグループ別懇談会を設定しました。患者の抱える悩み、それは進行する病気への不安であったり、他人には話せないことだったり、薬のことだったり、また介護に際しての家族への要望だったり悩みは山ほどあります。

一方、介護する側でも同様です。患者への接し方、介護の方法等の心配や悩みは尽きません。患者と家族が別々に懇談することにより、たとえそれがどんなに些細なことであっても、仲間からの良きアドバイスとして捉え、病気に立ち向かう勇気と、毎日の生活に何か得ることができたのではないかと思います。

さて、交流会が終了してからの約2時間を自由時間としました。この時間は奥久慈の秋を感じさせるりんご風呂にゆっくりと入浴された方、のんびりと部屋でくつろ

がれた方と思い思いに過ごされた事でしょう。

そうこうするうちにお待ちかねの宴会開宴の時間の18時が近くなりました。宴会場への移動が少しずつ始まりしました。

そして、皆さんお揃いのところで、まずは記念撮影です。続いて植本支部長の“乾杯！”音頭でいよいよ開宴となりました。

ビンゴゲームでしばらく楽しんだ後、いよいよ宴会の華というべき『カラオケ』の始まりです。寺門・綿引役員の手際のよい名司会ぶりに次から次へと飛び出す皆さんの十八番。どこで覚えたのか、何処で練習したのやら、見事な歌いっぷりに思わず息をのむほどでした。そして宴もたけなわの中でしたがお開きとなりました。

一夜が明けた旅の二日目、さわやかなすがすがしい朝を迎えました。朝食を済ませると、ロビーの前にある広い芝生庭園で、グランドゴルフに汗を流す人、囲碁や将棋を楽しむ人、自由に懇談する人など、正に安らぎの宿『やみぞ』を思う存分に満喫した事と思います。

次はりんご狩りです。りんご園に到着するや否や、試食コーナーでの味見となりました。籠をもってのりんご狩りの後は奥久慈の大

自然に包まれた中での昼食です。
おにぎり 2 個とお新香が少々入ったパック詰めのお弁当ですが、風のない秋晴れのりんご園で頬張るおにぎりのおいしさは最高でした。
今回の終わりは、りんご園での

解散です。

楽しかったこの二日間思う存分味わった奥久慈大子の秋、また来年の再会を約束しながらそれぞれの帰路につきました。

『やみぞ』 への一泊旅行の朝です

牛久市 磯崎ツギ子

晴れ晴れとした良いお天気で嬉しくなりました。私はこの旅でいくつかの温かさを得ました。

一つは役員さんが交流会で使う番号を書いた三角柱を作って下さり、参加者の前に立てたこと、これにより参加者の番号と合わせながらお話を聞くことができ親しみを感じることができました。

二つ目はりんご風呂、ドアを開けると湯気の中にふわーとした甘いりんごの香り、お湯の温かさ、ホッとする久しぶりのりんご風呂

でした。

三つ目は初めてのグランドゴルフ、芝に注ぐ太陽の暖かさ、家の中にいる方が多く、太陽の暖かさを忘れていたようでした。

ゴルフのルールも知らず、みんなで小さなボールを打ち楽しみました。

とても楽しくこの時病気の事も忘れていたようです。また楽しみたいとそんな気持ちです。

いろいろな計画を立てて下さった役員の皆様温かい気持ちに感謝致します。

りんご狩り

取手市 鈴木智津子

私は今年で 70 歳になり、パーキンソン病は 9 年目に入りました。

友の会に入り初めての旅行なので嬉しくて嬉しくて待ち遠しく思

いました。入会した時に10月には旅行がありますと言われたのが頭の中にずーと残っており、いつ知らせが来るかと楽しみにしておりました。

9月のはじめに届き、私はすぐに参加に○を付けて出すつもりでしたが、一人での参加なので少し不安がありギリギリまで出さずにいました。

その間自分はどこに行くにも押し車を押してゆき、柏方面、牛久方面と電車に乗り、また駅の階段の上り・下りをして、エスカレーターに押し車を上手に乗せられるように練習して、自信が少し付いてきたところで葉書を出しました。

とうとう行く日が来ました。前の日の夜早く寝ようと思ってもなかなか寝られず、もうすぐ朝が来てしまう。約2時間は寝られたと思います。

朝の目覚めからは忙しくて7時34分の水戸方面行きの電車に乗りました。朝が早いので乗客は余りおられませんでしたがなかなか水戸駅に着かず、つい乗っている近くのおばさんに「水戸駅はまだですか」「あと三つ目で水戸駅です」といわれてホッとしました。水戸駅南口に集合の皆さまは時間通りに集合され『やみぞ』のバスに乗って『やみぞ』に向かいまし

た。

バスの中では歌を歌ったり、お話をしたりしてとても楽しいバスの中でした。

昼には『やみぞ』で山菜そばを食べ、終わってから皆様とお話をして、いろいろお勉強になりました。

夜の部が楽しみでした。カラオケなどは余り歌う事はありませんでした。でも最初は下手な人からという事で手を挙げました。二人目でした。

一番目の方「うまい」これはヤバイと思いました。私は本当に下手なのに今さらやめるというわけにもいかず、歌いました。三人目でした。

良かった早く歌わせてもらってと思いました。

りんご狩りも楽しかったです。

来年の一泊旅行も同じところになりそうです。

りんご狩りから帰ってきて木曜日が病院で渡辺先生に会って次の日から急に身体の動きが悪くなり、今も困っています。(その当時で今は大丈夫です)

いろいろとありがとうございました。

来年皆様とご一緒できるよう今から頑張ってみます。

平成 24 年度第 1 回県南地区の交流会を開催して

龍ヶ崎市 植本純代

24 年度第 1 回の県南地区の交流会を 7 月 15 日(日)に開催しました。

この県南地区の交流会のスケジュールは平成 21 年から同じです。

午前中は音楽療法士の飯田先生による『癒しの音楽』です。

今回は前回の感想文にも有りましたようにせっかくのピアノ演奏の上手な先生が来られているのにピアノの演奏時間が短くて、もう少し聞きたいという要望がありました。

私たちは音楽会になかなか参加できないのもう少しピアノの演奏時間が欲しいというので、私の方から飯田先生にお願いしました。そんなことで今までより長いピアノ演奏をしていただきました。

飯田先生は 7 回続けて来て頂いておりましたが、会員の皆様は楽しみにして参加しておられます。

気さくで、楽しくて、会員皆様の心をつかんでおられます。

また、毎回お弟子さんをお連れ頂いて楽しく歌ったり、私どものお手伝いもして頂いています。

終わり近くになると先生がプレゼントを用意して下さり、ジャンケンで勝った人に当たります。これも皆様楽しみにしておられます。

お昼は皆さんでお弁当です。昼休みも会員さんとお話をする好い機会です。

午後は皆さんで自己紹介と情報交換を行いました。年 2 回の交流会のうち 1 回は神経内科の先生をお呼びしますが、今回は会員の間で話し合いをするという事で始まりました。

司会は吉田さんをお願いしました。

会員さんの話の中から参考になることがあれば幸いです。

反省することもありましたが次に向けて参考にしたいと思えます。

今回も会員外の方が 4 名申し込まれました。内 3 人が参加され入会下さいました。もう一人の方は 8 月になって入会して下さいました。

ほんの少しずつですが会員は増えてきています。これからも会員さんに満足してもらえよう

な交流会にして行きたいと考えています。

いつものことながら無事に終

りました。今回も参加者の家族の方々にお手伝いいただき感謝しています。

県南地区の交流会に参加して

取手市 M・N

さる7月15日に平成24年度上半期の県南地区の交流会が開催されました。最近恒例化しております飯田先生、高橋さん、角南さんの3名によるピアノ演奏音楽セラピーですが、今回は今までとは趣を変えた従来のカラオケもどきの歌唱ではなくて、まずは会員の八木さんによるシャンソンの独唱で始まり、ちょっと高尚な雰囲気をおもわせるものでした。

普段、音楽会などに行けない我々には嬉しいひと時でした。

その後、昼食は出前の弁当を味わいながら雑談を交えて楽しい昼食会で全員和気あいあいでした。

午後に入り患者・家族の本当に親しい者同士の身近な悩みごとの討論会ならぬウップン晴らし。

やはり話題は薬の摂取方法、あるいは今自分が飲んでいる薬が

正しいか、あるいはセカンドオピニオンはどうであろうか等々が出ました。また、支部長は30年余りの豊かな(?)病歴を基に質疑者に丁寧に回答されておられ、各人大いに参考となったのではないのでしょうか。

総勢40数名、朝10時から夕方4時までアツという間に過ぎました。本当に有意義な一日でした。次回も是非参加したく、ご多忙とは存じますが、役員の方々によりしくお願い致します。

会場準備に多大の労力がかかります。できれば少しでも病状の良い方は30分程早めに来ていただき、準備の手伝いをしていただければと思っています。ひき続きやっていくために皆さんで頑張りましょう。

会場風景



県南地区交流会に参加して

坂東市 益子憲明

平成24年7月15日(日)の県南地区交流会に参加しました。参加は友の会に入会して初めてです。(23年12月入会)

この病気の発症は、52歳の時点で、3年が過ぎようとしています。

初めは右手の振戦、筋肉のこわばり、右足を引きずり歩きにくい症状で、日常生活では手先の細かな作業が困難になっていました。更に発症後、年が過ぎるごとに腰痛がひどくなり今年の3月に脊髄刺激療法の手術を受けました。結果痛みが軽減され受けてよかったと思っています。現在、生活範囲が自宅中心となり、症状も他の人と比べると進行が早く感じています。

交流会の午前の部、リハビリのための音楽療法では、飯田先生が中心に楽しいトークを交えながら進行してくださいました。

ピアノ伴奏による合唱、参加者のリクエスト曲による独唱と楽しい時間を過ごし和やかな気持ちになりました。

その中で、『大きな声』で歌いましょうと飯田先生はおっしゃいました。『大きな声』を出し歌うことがこの病気のリハビリ療

法の一つであることが勉強になりました。

日常生活においても状況に応じて、出来る限り『大きな声』を出すように心がけたいと思っています。そういえば最近妻に「お父さん、声が小さくなったよね」と言われていたことを思い出しました。

午後は参加された方々の自己紹介、情報交換などが行われました。

参加された方がこの病気に対する考え方やどのような悩みをお持ちになっているかが解り自分自身に当てはまる事もあり大変役にたちました

尚、今までの会報を読みましたが、講演会及び医師との質疑応答がありましたが、今回なかったことがちょっと残念に思いました。

今後も引き続き、交流会、情報交換、講演会などを開催してほしいと思います。

最後に、今回の交流会開催のセッティングをしていただいた役員の方々にお世話になり、ありがとうございました。

今後とも身体の調子がよければ、積極的に参加します。

平成 24 年度県央・県北地区合同交流会に参加して

石岡市 清水晴美

7月22日(日)暑くなく、寒くなく、強い日差しもなく、絶好のお天気の中、友の会会員27名の参加により、那珂市中央公民館で地区別交流会が行われました。

午前中は、恒例の各自近況報告を行い、皆様のお元気な様子にほっとしました。中には参加したくとも体調の悪い方、入院中の方もあり、全員集合とはいきませんが、同じ病気で苦しんでいる会員から種々なお話が出て、自分だけつらい思いをし

- I. ピアノ演奏「名曲をあなたに」(演奏者 白井 俊文先生)
「トロイメライ」「乙女の祈り」「エリーゼのために」「ピアノソナタ」「トルコマーチ」
- II. オカリナ演奏「安らぎのひとときを」(演奏者 寺門正次さん)
「四季の歌」「草原のマルコ」「ビリーブ」「翼を下さい」
- III. みんなで斉唱「歌おう声高らかに」(伴奏 白井 俊文先生)
「青い山脈」「鐘の鳴る丘」「柿の木坂の家」「瀬戸の花嫁」「牧場の朝」「みかんの花咲く丘」「ふるさと」

いつもの澄んだオカリナの音色に、文字どおり安らぎのひとときでした。また「みんなで歌おう」では皆さん大きな声で合唱、マイクが廻ってくるので、さらに大合唱になりました。病気のヤールも家庭の事情も違いますが、ストレ

ているのではない、仲間が居る、一緒に前に進もう、そんな雰囲気がありました。役員さんが役割分担して用意して下さったお弁当やお菓子も最高においしく、ぬくもりを感じました。

午後は5名の参加者が増え、寺門役員さんの恩師である白井俊文先生が誰もが知っている曲をピアノ演奏して下さい、大いに盛り上がりました。参考までにプログラムを掲げます。

ス全部ふきとばし、またお会いしましょうネ、お元気でネ、と帰路に就いた。

今回の地区別交流会は楽しい思い出になりました。

参加された方・役員の方ありがとうございました。

平成 24 年度県央・県北地区合同交流会に参加して

日立市 尾沼友江

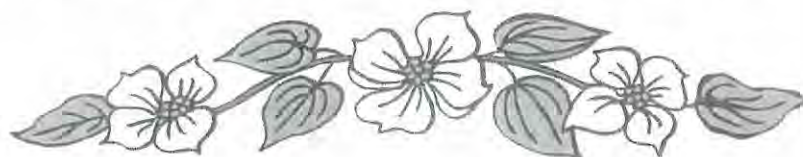
今日はとても楽しい一日でした。足の震えもいつもよりずっと少なかったのです。帰りに送って頂いた車の中で「大学教授の講演からは新しい知識を得ることができるけれど、今日のような交流会も楽しいわね」と話をしました。

交流会は宮部さんの司会で始まりました。何となめらかな口調でしょう。テレビ司会者のような名司会者のもと交流会は進んでゆきました。あがり性の私も少し多く話ができたとように思います。そして参加した方たちを身近に感じました。

午後の部は寺門さんの歌の先生とおっしゃる白井俊文先生の演奏会と寺門さんの演奏です。78歳になられるという白井先生の力強い演奏と巧みなジョークで最後まで楽しませて頂きました。斉唱の「みんなで歌おう」では、ピアノを弾きながら「ふるさと」を歌ってお

られました。幸いにも一番前に座った私は先生の声がよく聞こえ豊かなテノールの歌声に感動の花束を差し上げたいと思いました。また、新しい発見もありました。オカリナの寺門さん（こうお呼びしては失礼でしょうか）はユーモアのある方とは思いませんでした。まだ4回しかお会いしていませんでしたが真面目で気難しい方と、そんな印象でしたので嬉しくなってしまうました。そして哀愁をおびたオカリナの音色に私の横に座った方は感動して涙腺が緩んでしまったようでした。私は今日の楽しかった交流会に参加して、たとえ将来に不安があっても、つらい事に出会っても共鳴できる仲間がいるのです。上手に転換しながら過ごしてゆきたいと思いました。こんなステキな人達が近くにいるのですから・・・。

ありがとうございました。



県央・県北交流会に参加して

茨城町 石井ちよ子

私は発病から5年になります。昨年10月パーキンソン病友の会に入会しました。新人ですのでよろしく願います。「ピアノ演奏会、みんなで歌おう」にも参加しました。私は以前にパーキンソン病に音楽を聞いて「リズムに合わせて歩行訓練をしよう」という本を購入し、毎日CDを聞いていました。今回は大変興味を持って参加しました。午前中の皆さんのお話はとても参考になりました。私は皆さんのように頑張ってい

るのだろうかと思われさせられました。

午後のコンサートは、楽しいひとときでした。ピアノの先生のすばらしい演奏は大変感動しました。大声を出して歌ったこと、やさしい音色のオカリナ演奏は心が洗われるようで、ついホロリとしてしまいました。

役員の方々大変お世話になりました。また皆さんとお会いする日を楽しみにしております。

県央・県北交流会に参加して

匿名

主人は発症して七年になります。

当初の病院では、仕事、運動、車の運転はダメと言われました。薬は大量に出されてしまいゴルフ、テニスが大好きな主人はショックで、うつ状態になり心配でしたが、三年前に病院を変えてみました。すると今まで

とは逆で体を動かさないと筋肉が固縮すると言われました。今では毎日スポーツジムに通い筋力を付けています。

最近になり瞼の筋力が弱くなり、目が開け辛くなり、嚥下の力も弱く、むせたり、ヨダレが多くなりました。薬を服用しても効かず、医者には治らないと

健所に相談したところ友の会を紹介され、今回の交流会に参加させていただく事になりました。正直会場につくまでは不安でしたが、会員の方、家族の皆さんが明るく前向きで難病とは思えない方々で驚きました。また、役員の方の熱意が伝

わり、勇気と希望が湧き上がり、皆様と共に頑張っていきたいと思い、早速主人に話をして納得して入会する手続きをとりました。

会員の皆様よろしくお願ひ致します。

交流会の風景



第3回誌上作品展

第3回誌上作品展を開催致します。今回は7点の作品です。

☆ 写真	『花』	古河市	阿部由美子
☆ 短歌	『秋』	笠間市	愛子
☆ 手芸	『テーブルセンター』	牛久市	磯崎ツギ子
☆ 書	『人』	坂東市	篠崎敏満
☆ 自由詩	『風』	日立市	尾沼友江
☆ 手芸	『かわいい動物』	日立市	鈴木輝美
☆ 切り絵	『蔵のある町』	水戸市	宮部知克

今回は7点ですが、今後はより多くの皆様の作品を募集致します。

誌上作品展 絵手紙風花の写真

古河市 阿部 由美子

近所の方々から四季折々、たくさんのお花をいただきます。それらを飾ってデジカメで写真を撮り、パソコンに保存して（我々世代はパソコンを使う方が少ないので）後にポストカードにして差し上げると大変喜ばれます。



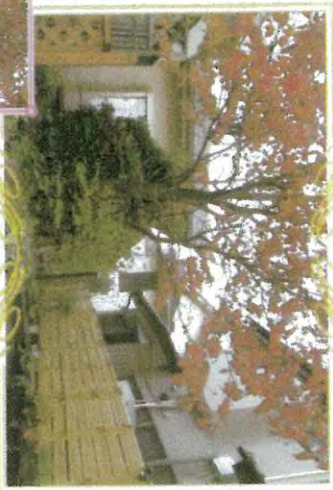
朝の光シリーズ

私のベットの位置が変わったので、もうこういう写真を撮れなくなっていました。私の好きな写真のひとつです。



坂口様提供による
日向日・2011.1.1.30

わが家の秋



竹の塀は主人の手作りによるもの
(約2カ月)を要した



Yumiko

ハナミズキの葉も
すっかり色づいて
枯れ葉がはらはらと
風に舞っているようすは
やっぱり今は
秋なんだなあと思う
十一月九日

誌上作品展

《短歌》

笠間市

愛子

・さらさらと落葉掃きゆく秋の日の心静かな夕暮れとなる

・遺歌集の河野裕子に涙せり限りなく吾寂しさの深まる

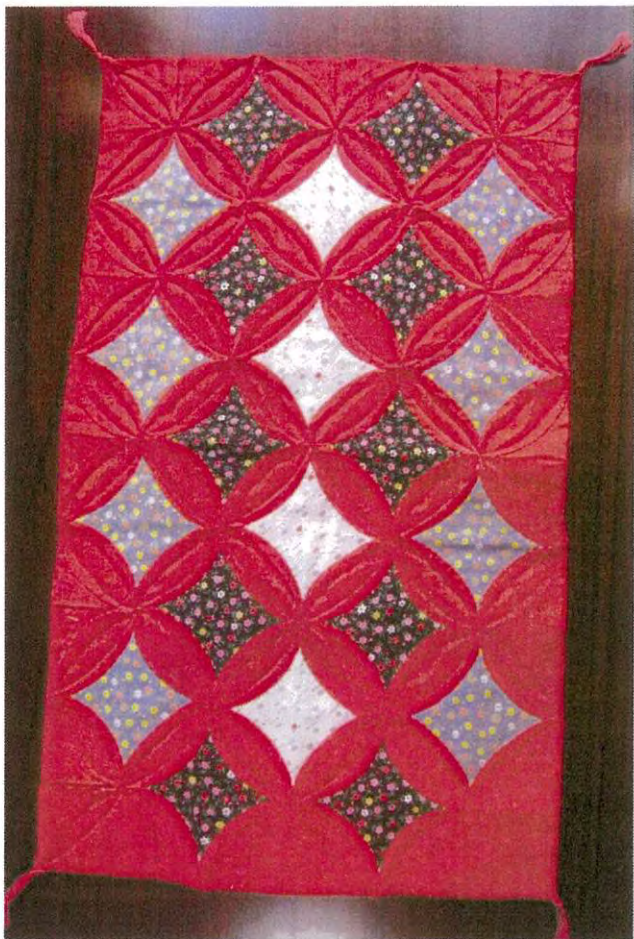
・白菊と紫式部大壺へたおやかにあり一人昼下がり

・ときおりに家族揃うからえばしばらくは輝くりんぐに引き寄せらるる

・『トキワハゼ』畦道に咲くその一群を残しし農夫の粹な草刈り

誌上作品展

《手芸》



テーブルセーター

牛久市

磯崎ウギ子

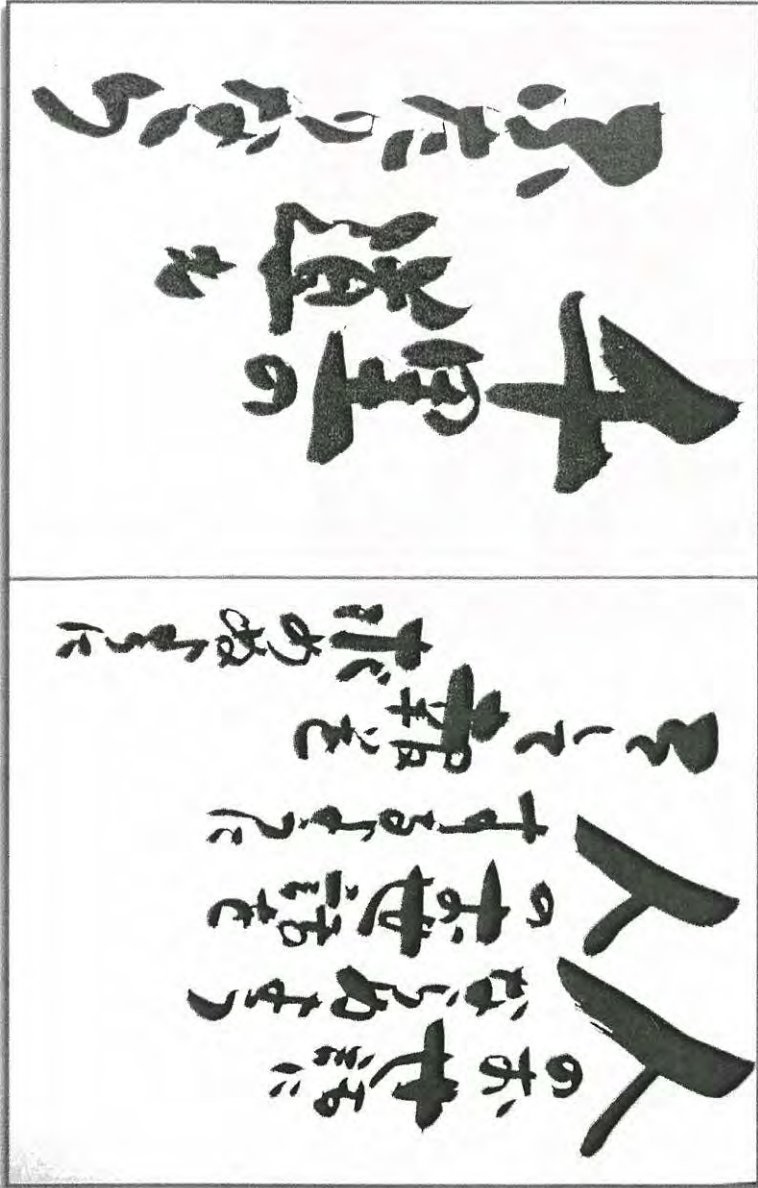


ティッシュケース

誌上作品展

《書》

坂東市 篠塚敏満



誌上作品展 《自由詩》

風 (進行期)

日之市 友江

暗いトニネル
おぼがな、足元
止まらな、足の震え
消えてゆく表情
でも私は一人じゃな、
「私達、いつも一緒よ」と
励し合う友がいる
夢をもち続けた、
希望をもちつて
そして未知の戸が開かれた時
喜びが来ると信じていた
その時 野に咲く花のよつばに
儂しい風がそおと
頬をなでてゆくでしよう。



誌上作品展

《手芸》

日立市 鈴木輝美

手作り動物の勢ぞろい、楽しそうに並んでいます。



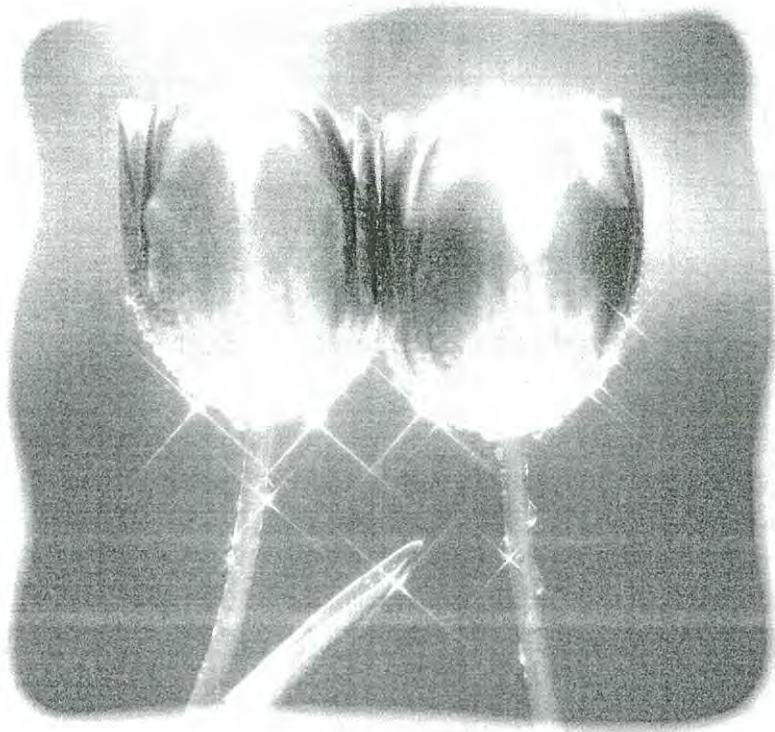
誌上作品展

《切り絵》

『蔵のある町』

水戸布 宮部 和克





患者さんのために
信頼と愛がいっぱいだった

藤本製薬グループ

エフピー

株式会社

【お問い合わせ先】

〒580-0011 大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

TEL:0120-545-427 FAX:0120-728-093

URL:<http://www.fp-pharm.co.jp/>

平成23年5月作成



家族の
気持ちに、
新しい薬で
こたえたい。

あなたのからだを、気遣う。

あなたのこれからを、気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp



新薬で人々のいのちと健康に貢献します。

私たちノバルティス ファーマは、

分子標的薬や抗体医薬など最新の技術を生かして、

世界で140もの開発プロジェクトを進めています。

くすりを必要としている患者さんに、革新的な新薬を。

ノバルティス ファーマの新薬は、これからも進化を続けます。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社
〒106-8618 東京都港区西麻布4丁目17番30号
<http://www.novartis.co.jp/>

事務局からのお知らせ

◎ 平成 24 年度署名・募金

今年も署名募金の季節になりました。先日の全国会報（NO. 130 号）と一緒に送りました。今年は JPDA（全国パーキンソン病友の会）の署名用紙ですが募金欄が省略されていますので今まで通り募金はお願い致します。毎年のことながら、皆様一人一人のご協力がなければできません。返信用の封筒も入れました。新入会員の方で解らないときは支部長（0297-64-3546）まで連絡下さい。ご説明します。

◎ アンケートが全国会報に入っていました。面倒だと思いますが、記入してから同封の封筒でお送りください。

◎ MSD という製薬会社の『治験をしてもらえませんか』というチラシがはっていました。この支部だよりも治験の記事が掲載されていますので参考にしてください。また主治医の先生と良く相談下さい。

◎ 京都大学教授山中先生に 500 円募金をしようと全国パーキンソン病友の会でやることになりました。パーキンソン病に iPS 細胞の実用化を推進して頂けるように、皆様の気持をお出ししようと決まりました。これもご協力をお願いします。（総会や交流会の集まった時にご協力をお願いします。）

◎ 3 種類の募金が行われていますが、iPS 募金は総会や交流会の時にご協力をお願い致しますのでその時にはよろしくお願い致します。

◎ 全国会報にも書かれていますが、東京の本部事務局で神経内科医による電話医療相談が毎月第 4 土曜日に開催されています。相談希望者は事前に本部事務所にご一報下さい。

TEL : 03-5318-3075 FAX : 03-5318-3077

1971年8月7日第3種郵便物認可（毎月6回）1の日、6の日
2012年12月2日発行SSKA増刊通巻第 7770 号

編 集 後 記

10月21日(日)～22日(月)の『やみぞ』で行われた一泊旅行の患者・家族の交流会は参加者皆様と役員の方々のご協力により無事に終わることができました。新しい企ても試してとても楽しい旅行となりました。

来年はもっと多くの方が参加されることを願っています。

今年は夏の暑さが厳しく、暑い日が多くありました。11月半ばになって急に寒くなってきました。寒くなりますと身体の動きも悪くなりやすいので、くれぐれも気をつけてお過ごしください。

会員皆様の体験記、自分史、生活の工夫、苦言、行ってほしいことなど、また、詩、短歌、俳句、川柳、その他の作品、料理レシピ等募集しています。

ご自分の作品の発表の場としてご利用ください。

尚、メールを使われる方はメールでお願いします。(メールアドレスは表紙にあります。)

編集者 全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

発行者 特定非営利活動法人・障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26-21

TEL 03-3416-1698 FAX 03-3416-3129

頒 価 500円